教科（ 国 語 ） 科目（ 国語総合・現代文編 ） 単 位 数（ 2 ）

類型（ 共通 ・ 文 ・ 理 ） 履修規定（ 必修 ・ 選択 ）

年間目標	1 現代文分野の文章を扱う中で、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	教 科 書 ・ 副 教 材 等 1 教科書 「高等学校 改訂版 新訂国語総合 現代文編」 第一学習社 2 その他 国語便覧・文学史 国語辞典・漢字

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
1学期	4 5	高校での学習の仕方 （1） 評論（一） 新しい地図を描け 中沢新一 （3） 水の東西 山崎正和 （4） 表現の実践 スピーチをする （1）	・高校での学習の仕方を理解する。 ・筆者の主張に触れ、高校生活への抱負を新たにする。 ・西洋文化と対比された日本文化の特徴について理解を深める。 ・スピーチをしたり聞いたりする際の留意点を理解し、スピーチをする。	・高校での予習・復習の仕方が理解できたか。 ・自分たちが考える「変な地図」の例を発表することができたか。 【話す・聞く能力】 ○連休中の課題提出 ・二項対立的な評論の読解方法を習得することができたか。 【読む能力】 ○１学期中間考査 ・スピーチの意義や交流の楽しさを味わえたか。 【話す・聞く能力】
	6 7	小説(一) 羅生門 芥川龍之介（8） 評論（二） 不均等な時間 内山 節 （7） 詩 自分の感受性くらい 茨木のり子（1） I was born 吉野 弘 （1） （１学期末考査後） 表現の実践 創作をする （1）	・場面の推移や登場人物の心理の変化を理解する。 ・作品を鑑賞し、小説に親しむ。 ・近代的な時間の概念について理解を深める。 ・朗読を通して、詩に親しむ。 ・作品世界の理解を深める。 ・創作のしかたを理解し、実際に創作をする。	・あらすじを簡潔にまとめることができたか。 ・下人の心理を捉え、読み味わうことができたか。 【読む能力】 ○ 課題提出 ・本文の提示する課題の解決について考察することができたか。 【読む能力】 ・詩の内容を理解して、適切に音読することができたか。 ・表現の特色が理解できたか。 ・作者など関連した事柄について調べ、論じることができたか。 【知識・理解】 ○ 授業ノート提出 ○ 課題提出 ○ １学期末考査 ・創作をしたり読んだりすることにより、創作の楽しさを味わえたか。 【書く能力】
夏休み		・夏季休業中課題	・問題演習と読書感想文の作成を通して読解力を高める。	・問題演習と読書感想文の作成を通して自己の世界を広げ、読解力を高められたか。
2学期	8 9 10	小説(三) 空き缶 林 京子 （6） 随想 交換は愉しい 内田 樹 （4） 表現の実践 話し合いをする （2）	・ある程度まとまった長さのある小説の読解方法を習得する。 ・評論的な随想の読解方法を習得し、交換が果たしている役割を読み取る。 ・話し合いのしかたや留意点を理解し、実際に話し合いをする。	○ 課題テスト ○ 課題提出 ・戦争や原爆を題材とした小説を読み、戦争や原爆について理解を深めることができたか。 【読む能力】 ・コミュニケーションの本質を理解することができたか。 【読む能力】 ・話し合いを通して、問題の解決を図ろうとする姿勢を身に付けることができたか。 【話す・聞く能力】 ○ 課題提出 ○ ２学期中間考査

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
2学期	11	評論（三） 自分の身体 鷲田清一　（5）	・全体の構成を把握し、論の展開に即して正確に内容を読み取る。	・「像」としての自分の身体について考え、自己に対する理解を深めることができたか。【読む能力】
		評論（四） 生と死が創るもの 柳澤桂子　（5）	・三段構成の評論の読み方に習熟する。	・生命倫理学という現代的なテーマに触れて、多角的なものの見方や考え方を身に付けることができたか。【読む能力】
	12	短歌と俳句 その子二十　（1） こころの帆　（1）	・短歌の主題や作者の心情を理解する。 ・句の表現に即して内容を味わい、作者の人生や自然に対する見方・考え方を理解する。	・短歌の主題・作者の心情を理解したか。【読む能力】 ・俳句を読むことに楽しさや興味を感じたか。【関心・意欲・態度】 ○　授業ノート提出 ○　課題提出 ○　２学期末考査
		（２学期末考査後） 表現の実践 ディベートで討論する（1）	・ディベートの形式と手順を理解し、実際にディベートを行う。	・ディベートを通して、論理的な思考力や討論する力・説得する力・聞く力を身に付けることの必要性を理解することができたか。【知識・理解】
3学期	1	評論（五） グローバリズムの「遠近感」 上田紀行　（4）	・「遠近感」の喪失について問題意識を喚起する。	○　課題テスト　○　課題提出 ・グローバル化された世界について認識を深められたか。【読む能力】
	2 3	小説（三） 城の崎にて 志賀直哉　（7）	・近代の代表的な小説を読んで、小説についての理解を深め、その面白さを味わう。	・生物の生と死について認識を深めることができたか。【読む能力】
		評論（六） デザインの本意 原　研哉　（4）	・例を的確に読み取り、筆者の主張へと集約させる読解方法を習得する。	・物の形が暮らしにもたらす影響について考える契機とすることができたか。【読む能力】
		表現の実践 意見を述べる　（1）	・意見文の書き方を理解し、実際に意見文を書く。	・意見文を書いたり他の人の意見を聞いたりすることにより、ものの見方や考え方を広げることができたか。【書く能力】
		調査をもとに報告する（1）	・図・グラフなど複数の資料を読み解き、レポートを作成する。	・レポートを書いたり他の人の発表を聞いたりすることにより、ものの見方や考え方を広げることができたか。【書く能力】 ○　課題提出 ○　学年末考査
		（学年末考査後） 『高校生のための愛媛の文学』の講読　（1）	・上代から現代にかけての愛媛の文学を味わう。	・愛媛の文学に関心を持って読めたか。【知識・理解】

評価の方法	1　各学期の成績の評価は、定期考査と観点別評価を総合して（提出物、小テストを含む）行う。 2　観点別評価は、記述の確認・行動の観察などによって行う。 3　「国語総合」の考査は、現代文分野と古典分野（古文・漢文）とに分けて行うが、学期成績・学年成績は「国語総合」として行う。 4　教材によって感想文・小論文などを実施し成績の評価に算入する場合がある。

○　国語総合（現代文）の学習法

1　基本的な心構え

⑴　授業の予習を中心にしよう。

現代文は人生を深め、より豊かな人間性を養うとともに、他の全ての教科の基礎となる大切な学問である。ところが、日常の話し言葉で書いてあるため易しそうに見え、諸君の中には、今まで予習をしないまま安易に授業に臨んだ者も多かっただろう。しかし、人生やそれを取り巻く自然や社会等の抱えた問題は決して容易ではなく、それを扱う現代文に対しては相当な覚悟で取り組まなければならない。授業に対する積極的な取組こそが現代文理解の秘訣である。

⑵　読書に心掛けよう。

単に小説だけでなく、自然・社会・歴史・思想等の随筆や評論をも広く読み、新聞にも目を通して、新しい知識を習得し、多様なものの見方・考え方を身に付けるように心掛けよう。朝の読書の時間も十分活用しよう。

⑶　書くことに心掛けよう。

知識は文章化することによって定着するものである。予習・復習や授業では、ノートを十分に活用し、読書の後にも要旨か感想を書き留める習慣を身に付けよう。

⑷　辞書を活用しよう。

国語の基本は言葉である。言葉の意味・用法は辞書や文法書で正しく理解し、読解力の向上に努めよう。

2　学習の方法

国語は「よく読み ⟶ 難解な語句を調べ ⟶ 段落の要約をし ⟶ テーマを考える」という、諸君の誰もが知っている方法以外に、上手な予習の仕方も上達法もないのである。

⑴　予習について

予習が一番大切である。予習中心の勉強計画を立てよう。

ア　ノートの上のページを予習に使い、下のページは授業中の記録や復習に充てる。

イ　作品を繰り返し読んで筆者の意図をつかみ、ノートの最初に書き留めておく。また、教科書教材末の「学習」や「言葉と表現」の問題を解いてみる。

ウ　ノートは、段落ごとに次の事項を記入しておく。

（ア）段落の要旨・指示語の内容・接続語の働き・新出漢字（ふりがなを振る）

（イ）難解な語句やポイントになっている語句の辞書での意味と本文中での意味

（ウ）教科書教材末の「学習」「言葉と表現」について自分で考えた内容など

⑵　授業について

ア　積極的に意見を述べ、疑問点や不明な点は質問する。

イ　ノートを活用し、予習事項の訂正・補足、板書事項や大切なポイントを文章化する。

⑶　復習について

授業中の断片的な記録を筋の通る文章にし、この時間の要点が何であったかをその日のうちに確認しておく。

⑷　その他

ア　教科書や副読本・国語便覧・各種辞書等を使って、勉強をしっかりとすること。

イ　実践的な問題演習も、定期考査、校内模試、夏・冬・春の長期休暇などの度ごとに、学校指定の問題集で範囲を指定するので、計画的に取り組むこと。まず自力で時間を掛けて解き、その後、解答例を参考に検討を加え、なお不明な箇所は先生に質問しよう。

ウ　進路志望に応じて、関連のある新聞記事等を切り抜いて自分だけの「スクラップノート」を作ろう。また、新書など自分を高めてくれる本を読み、読書記録やレポートを作ろう。いずれ、進路選択や小論文、レポートの作成などに生かされるだろう。